ほっと

No. 59
2020 Spring

含松山
臨南寺

特集

瑩山禅師ものがたり④

八歳になられた瑩山さま いよいよ永平寺に登られることに

お母さまの心配なこと

瑩山さまは祖母の明智さまのお導きで永平寺に上がることになりました。永平寺は、瑩山さまがお生まれになった越前の多祢村（現在の福井県越前市）から二、三十キロしか離れておらず、修行の厳しさで有名でした。

瑩山さまの出家に反対されていたお父さまは、「永平寺の厳しい修行に耐えられずに、すぐに帰ってくるに違いないわい」と考えていました。

お母さまの心配は別のところにありました。それは利発で何事にも一生懸命になる反面、非常に気が短く怒りっぽい瑩山さまの性格でした。

「どんなに優れていても、すぐに腹を立てるようでは、世のため人のために役立つ人にはなれません。どうか穏やかなお坊さんになるよう見守ってください」

日頃からことあるごとに観音さまにそう願い、永平寺に出発する前の夜にも瑩山さまにお諭しになりました。瑩山さまも、観音さまに祈るお母さまの姿を心に焼き付けていました。

義介さまを師と仰いで

明智さまに手を引かれて永平寺に上がられた瑩山さま。永平寺は、道元さまがお亡くなりになって二十二年、第三代の義介さまの時代になっていました。第二代の懐奘さまもご存命で義介さまを補佐されていました。

義介さまは、日本生まれの禅宗のひとつ達磨宗のご出身で、同門の兄弟子の懐奘さまに勧められて道元さまのもとで修行を積まれました。道元さまの亡き後、後を継いだ懐奘さまの指示で中国にわたり、中国の禅院を歴訪すること四年間。帰国後は永平寺の伽藍を整備し、規則を改革されました。

道元さまのもとで義介さまは、調理をつかさどる典座を担当されました。毎日谷底から水を汲み、桶をかついで九百メートルも急坂を登られたのです。

その義介さまのもとで剃髪された瑩山さま。八歳の少年僧の誕生です。

日常生活のすべてが修行

道元さまは京都の興聖寺から越前の永平寺へ移られると同時に、「布教」から「弟子の養成」へ軸足を移されました。永平寺は修行道場になったのです。道元さまは食事や掃除など日常生活の一つひとつがかけがえのない修行だと考えていました。「僧の仕事は、坐禅と礼拝、そして洗面である」とも説かれています。

「一人でもいいから、お釈迦さまの教えを正しく体に沁み込ませた弟子を育てたい」それが道元さまの願いでした。

永平寺で瑩山さまも坐禅に打ち込みました。只管打坐、ひたすら座り続けました。夏はまだしもしのぎやすい永平寺ですが、冬の寒さは格別です。大人の修行僧でもくじけそうになる寒さの中で、幼い瑩山さまの毅然とした姿は義介さまの目にも鮮やかに映ったに違いありません。

永平寺は七百七十年以上にわたり修行の聖地である

まけよ蒔け仏の種も彼岸から

鬼貫

三月二十三日は彼岸会です ご家族そろってお参りください

春分の日を中日とし、前後三日ずつをあわせた七日間を「お彼岸」と呼びます。今年は、三月二十日が「彼岸の中日」、十七日が「彼岸の入り」、二十三日が「彼岸結願」になります。

お彼岸は、平安時代の初めに貴族から始まり、やがて武士に、江戸時代には庶民に広まりました。春分の日には太陽が真西に沈みます。「西方浄土を拝むのにふさわしい」と定着したようです。

いろいろな悩みが多く先行き不透明なこの世を「此岸」といいます。「彼岸」は迷いや苦しみのない心安らかなあの世のこと。お彼岸の七日間は、気持ちよく彼岸に渡っていけるよう、生活を見直し、善行を施して、ご先祖様のご冥福を祈る大切な時期です。

臨南寺では、彼岸結願の二十三日午後一時から彼岸会施食会を修行いたします。亡くなられた方の冥福を祈り、先祖供養の法要を行います。ご家族そろって彼岸会にお参りください。お墓を清めご先祖様に手を合わせましょう。当日ご都合の悪い方は、不参でのご回向をお受けいたしますのでお問い合わせください。

ご家族そろってご先祖様に手を合わせましょう

韋駄天様

昨年のNHKの大河ドラマのタイトル「いだてん」は、実は仏教の守護神「韋駄天様」のことです。ヒンズー教の軍神が前身といわれ、仏教に採り入れられてからは四天王の増長天に従う将軍の一神となり、仏法と寺院を護る仏神として信仰されてきました。

ある鬼がお釈迦さまの遺骨を盗んで逃げたとき、一瞬で追いつき取り戻したと言われます。そのため足の速い人を「韋駄天」と呼ぶようになり、マラソンランナーを主人公にした大河ドラマのタイトルにもなりました。

兜と鎧をつけた軍神の姿、胸の前で合掌したその手の上に宝棒を乗せています。その姿から、修行の妨げとなるものを取り除くと言われ、寺の建物や庫裏の守り神とされてきました。また、お釈迦さまのために食料を駆け巡って集めていたと言われ、「ご馳走」の由来となり、食に不自由しないという功徳もあります。

禅宗では厨房や僧坊を守る護法神として、厨房や庫裏にまつられています。当寺でも、大ぶりな韋駄天様が庫裏の玄関に安置され、小ぶりな韋駄天様が客殿の厨房の入り口にまつられています。

兜と鎧を身にまといにらみを利かせる韋駄天様

五月には春のマトリ合同法要があります

五月十七日（日）午後一時から、がっしょう園マトリの合同法要が営まれます。今回は落語です。二〇一七年秋にお招きした柳家一琴師匠をお迎えします。大阪府茨木市出身ながら江戸落語の柳家小三治師匠に憧れて入門された珍しい経歴をお持ちです。

二年半前の演し物は「てんしき」という古典落語でした。額に汗をかきながらの熱演に場内は大爆笑。サービス精神あふれる一琴師匠は紙切り芸も披露。「ネズミを切ります」と言いながら現れたのはミッキーマウス。本格的な紙切り芸に拍手喝采でした。

一琴師匠の熱演に場内は大爆笑

落語を聞いた後はマトリに移り、読経の中でご焼香していただきます。お墓の継承が難しくなる今、永代供養のマトリへ申し込まれる方が増えています。

お客様の似顔絵の紙切りにも挑戦

臨南寺行持予定（三月・四月・五月）

彼岸会お墓経（ひがんえ・はかぎょう）　＊三月十九日・二十日　午前十時～午後三時（受付は随時）
お彼岸のお墓経を行います。臨南寺にお墓をお持ちの方に限ります。（回向料二万円）

マトリお墓経（はかぎょう）　＊三月十九日・二十日　午前十時～午後三時（受付は随時）
お彼岸のお墓経を行います。お申し込み多数の場合は各家ご同席での読経になります。（回向料一万円）

彼岸写経会（しゃきょうかい）　＊三月二十日　午前十時～午後三時（受付は随時）
亡くなられた方やご先祖を偲びながら、一文字一文字心を込めて、お写経なさいませんか？　大本山總持寺に納経させていただきます。（納経料千円）

春季彼岸会施食会（ひがんえ・せじきえ）　＊三月二十三日　本堂にて　午後一時～午後二時三十分
お彼岸供養の法要を行います。お彼岸はご先祖様に感謝する大事な期間です。ご先祖様を偲び今あることに感謝いたしましょう。どなたでもご参加いただけます。（回向料一万円）

釈尊降誕会（花祭り）（しゃくそんごうたんえ）　＊四月八日　午前九時　本堂にて
お釈迦様のご誕生日に、感謝と報恩の法要を行います。誕生仏様に甘茶を注いでお祝いしましょう。

がっしょう園マトリ合同法要　＊五月十七日　午後一時～
マトリにご納骨された方々の慰霊の法要を行います。落語を聞いた後、マトリでご焼香していただきます。

お気軽にご参加ください

早朝坐禅会
毎月第一土曜日（一月、八月は無し）午前六時半～　本堂にて

写経会
毎月二十日（八月は無し）午前十時～午後三時　写経料・千円

＊いずれも急に中止になる場合がありますので、前日に確認してください。

皆様、よろしくお願いいたします。

昨年の十二月よりお勤めさせて頂いております、新潟県魚沼市出身の樋口崇広と申します。私は東京にある駒澤大学を卒業後、福井県にある大本山永平寺にて二年九か月間修行させて頂きました。

樋口崇広（すうこう）

実家がお寺ですが、お経を唱えたことも頭髪を剃ったこともなく、何もかも無知だった私にとって、永平寺での修行生活はとても貴重な経験でした。禅僧として修行するということは、食べること、寝ること、用を足すこと、身の回りの清掃まで、毎日の生活を丁寧に行うこと。そんな何気ない日常生活が、修行そのものです。

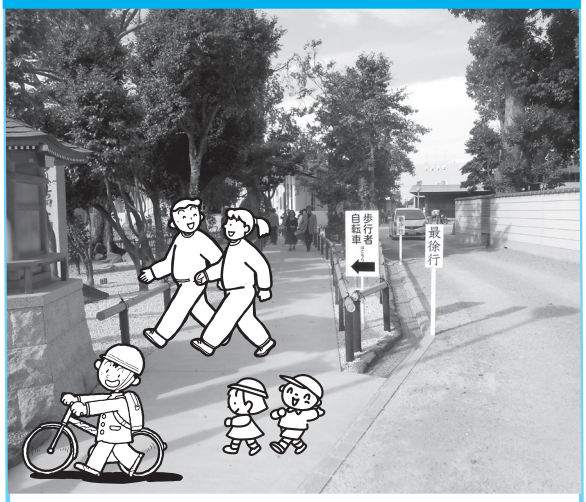
そのこと自体は難しくないのですが、修行当初は、今まで過ごしてきた生活から環境が変化するからか、誰しもが大変な思いをします。ですが、一日、一か月、一年と過ごしていると、修行生活にも慣れてきて、顔つきや言葉遣いも変化してくるように感じます。

「身心一如」という禅語があります。禅では心を整えるのに、直接心に働きかけるのではなく、日常の行動・言動を正すことで心を正していこうと考えます。だからまず身を整えると自然に心が整ってくる。逆に心が整っていないと、日常の行動・言動もいい加減なものになる、と言えます。

この度はご縁を頂いて、臨南寺に参りました。今まで訪れたことのない大阪の地でもまた、多くの出会いや様々な経験をして自分自身を成長させるとともに、臨南寺に奉仕していきたいと思います。

境内で一番早く咲く桜は、本堂前の河津桜です。毎年三月には満開を迎えます。山門前の東日本大震災復興祈願桜も芽吹き始めています。どうぞお楽しみください。

この道は、自転車もご利用ください



この歩道は、徒歩の方や車椅子の方だけでなく、自転車の方もご利用いただけます。

数年前から当寺院の境内地で人身事故が発生しています。境内での運転は最徐行でお願いします。

改善される様子が見られなければ、車両の乗り入れを禁止いたします。

なお、境内地内での事故等につきましては、当寺院では一切の責任を負いません。

「ほ～っと」59号
令和2年2月
編集・発行：棲伽林（りょうがりん）「ほ～っと」編集室
〒546-0034　大阪市東住吉区長居公園1-32
TEL 06-6698-1001
FAX 06-6697-3330
Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www.rinnanji.com

編集後記

「徹子の部屋」でしゃべりにくそうに、でも一生懸命に話す堀ちえみさんを見ました。舌ガンの大手術を乗り越え生きようとする心。デビュー40周年のステージに立ちたいとボイストレーニングを続ける姿。健康な者がボ～ッと生きているわけにはいきませんね。（M）